

巻頭によせて



校長 北村 聡

Kitamura Satoshi

江戸時代の儒学者、貝原益軒は「聖人をもって我が身を正すべし、聖人をもって人を正すべからず。凡人をもって人を許すべし、凡人をもって我が身を許すべからず。」という言葉を残しています。

とかく他人の欠点は目につきやすく、自分のそれは見失いがちです。お互いに人間である以上、完全な存在であるはずもなく、失敗や怠惰が原因で人の怒りや顰蹙（ひんしゆく）を買う事態を招きかねません。

少なくとも、どうせ人間はそんなものだ自分を甘やかしてしまっただけは何とももったいないことです。幸い人には向上心が備わっており、困難を乗り越えて成長しようという意欲があります。

到底過去の聖人とされる人々には及ばずとも、常に自分自身に反省を加え、少しでも理想的な人間に近づこうとする努力は続けなければなりません。勉学を通じて、またクラブ活動を通じて、大人になっても日々の生活の中でそれは実行できうことです。互いの長所を認め合い、学び合うこと、毎日少しずつ成長出来る存在であることの有り難さを日々噛みしめたいものです。